

専門科目
(運動機能科学コース開講)

【科目名】		摂食・嚥下障害学総論		【担当教員】	井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dbmhs101	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	井上：inoue@dent.niigata-u.ac.jp 辻村：tsujimura@dent.niigata-u.ac.jp 真柄：jin-m@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
遅刻・無断欠席のないようにすること。授業中の質問や疑問などを積極的に行い、授業への主体的な参加を心がけること。					
【講義概要】					
(目的)					
正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。種々の疾患を原因とする摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。摂食嚥下障害の検査及びリハビリテーションについての知識を深め、臨床応用へとつなげるだけでなく、一生涯健康に食べることの意義について考えていく。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
主として配付資料及び参考図書を使用して講義を行う。毎回の確認テストを行い、回収後に解答の解説を行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
摂食嚥下障害の病態を把握するために、摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 摂食嚥下障害の臨床アプローチを把握するために必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。					
【行動目標(SBO)】					
摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明できる。 摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回資料を配付する。					
【参考書】					
摂食嚥下リハビリテーション第4版(才藤栄一・植田耕一郎監修) 医歯薬出版					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、出席(30%)ならびにレポート(70%)で評価を行う。本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	総論	講義（井上）	準備：これまで学修してきた摂食嚥下障害に関する内容の整理.	180分
2	摂食嚥下機能に関わる神経解剖	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる末梢神経解剖）.	それぞれ 90分
3	摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる中枢神経解剖）.	それぞれ 90分
4	摂食嚥下障害の原因疾患総論	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：授業内容の整理（原因疾患）.	それぞれ 90分
5	摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下の検査）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分
6	障害の考え方と摂食嚥下リハビリテーション	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（リハビリテーション論）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分
7	摂食嚥下リハビリテーションに必要なチームアプローチと各職種の役割	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（チームアプローチと多職種連携）の知識の整理 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分
8	加齢に伴う摂食嚥下機能の減退	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食の加齢変化）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分

9	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（脳血管疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
10	神経疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（神経疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
11	呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（呼吸器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
12	小児（発達障害、先天異常）の摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（小児の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
13	消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（消化器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
14	頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（頭頸部腫瘍の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
15	これからの摂食嚥下リハビリテーションの向かうべき方向	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域の知識の整理ならびに臨床への展開に向けた課題を考える。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分

【科目名】 摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）		【担当教員】 倉智 雅子、松村 博雄、木戸 寿明
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbms106	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	倉智：mkurachi@iuhw.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 倉智：メールにて随時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 学修に取り組む姿勢も評価の対象となるため、積極的な質問や意見交換が望まれる。		
【講義概要】 (目的) 「学位授与の方針と当該授業科目の関連」：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として、配付資料とトピックに合わせた動画を使用して講義を行います。 演習については授業の中で正しい解釈について解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」倉智：レポートについては、コメントを付して返却します。 松村：理解度確認テストにコメントを付して返却。 木戸：ディスカッション・ディベートの中で、現状の理解度の把握と必要な助言を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 摂食嚥下障害の臨床の土台となる知識と技能を習得するために、ヒトの嚥弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。また、口腔ケアに必要な知識と技術を修得する。		
【行動目標(SBO)】 口腔の診察：口腔内の観察の仕方を説明でき、歯科領域特有の専門用語を用いた表現ができる。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習を通し、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施できる・演習を通し、顎顔面領域のレントゲン画像の見方や、診療報酬・介護報酬のしくみが概説でき、医療事故等の事例分析ができる。・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理および嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）		
【教科書・リザーブドブック】 倉智：プリントを配付予定 松村：プリントを配付予定 木戸：プリントを配付予定		
【参考書】 倉智：才藤栄一，植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版．医歯薬出版， 2016． ￥7,600		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 3人の担当者の評価を倉智50％（うち、レポート40％、学修に取り組む姿勢10％）、松村25％、木戸25％の割合で合わせて総合的に評価を行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	嚥下の神経機構	講義(倉智)	予習：これまでに学習した嚥下器官の解剖(特に神経系)と健常嚥下の整理を復習しておく 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
2	嚥下反射の惹起機構：感覚受容器の特性	講義(倉智)	予習：これまでに学習した嚥下器官のうち、特に口腔と咽喉頭の解剖を復習しておく 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
3	嚥下の異常所見とその解釈	講義・演習(倉智)	予習：嚥下造影で観察できる健常嚥下の動態および異常所見の確認 復習：演習を通して気付いたことや疑問点をディスカッションで発言できるようまとめておく。	220
4	嚥下障害症例の嚥下造影画像解析とディスカッション	講義・討議(倉智)	予習：討議参加への準備 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
5	鰓弓性(咽頭弓)器官 咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	講義(松村)	準備学習：初期発生について	45
6	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ 脳神経と咀嚼、嚥下、発生のかかわり	講義(松村)	準備学習：脳神経の解剖学	45
7	全身状態の評価 バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体機能評価	講義(木戸)	準備学習：臨床検査学の復習	220
8	口腔の診察 口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケアの理論と実際	講義(木戸)	準備学習：臨床歯科医学の復習	220

【科目名】高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		【担当教員】伊林 克彦
【授業区分】専門科目	【授業コード】dBmhs109	(メールアドレス) ibayashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜日午後
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を修得していることが前提です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では大脳の器質的な損傷に伴う巣症状を理解していることが求められます。		
【講義概要】 (目的) 高次脳機能障害を幅広く理解する。 中枢神経系の理解を深める。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 試験や授業の後で個々にフィードバックする。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ 中枢神経系の発生、形態学ならびにヒトの脳の特徴（特殊化）を研究する。 ・ 高次脳機能について幅広く概観する。 【行動目標(SBO)】 ・ 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学修する。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配付します。		
【参考書】 脳解剖学 萬年甫 原一之 南江堂 9,800円 高次脳機能障害 藤田郁代 医学書院 4,725円		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート60%、口頭試問40%。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		60					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の基本概念	講義	中枢神経系に関する解剖学および神 経学の書籍を読む。	220
2	聴覚認知とは 聴覚認知の障害	講義	聴覚と脳の関係について関連書を読 んで予習する。	220
3	視覚認知とは 視覚認知の障害	講義	視覚と脳の関係について関連書を読 んで予習する。	220
4	視空間認知とは 視空間認知の障害	講義	視空間知覚と脳について関連書を読 んで予習する。	220
5 6	5 高次脳機能障害の臨床像 ①各症状の出現頻度 ②各症状と左右脳半球の関係	講義	脳血管障害、変性疾患、外傷、脳腫 瘍などの疾患に対する文献や書籍を 通して予習する。	220
7	触覚認知とは 触覚認知の障害	講義	触覚及び体性感覚と脳について関連 書を読んで予習する。	220
8	行為機能とは 行為の障害	講義	行為・遂行機能と脳について 関連書を読んで予習する。	220

【科目名】 高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dBmhs110	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20, 他研究室在室時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関及び地域保健・健康増進事業等で言語・高次脳機能障害者へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 ※本科目は言語聴覚士、公認心理師等を目指す者には重要な科目となります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。		
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性；専門領域に関する多様な課題を分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。 「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で既に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。 可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材や臨床検査を使用して、講義を進めていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。 【行動目標(SBO)】 高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。 尚、「（神経）解剖学」「（神経）生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。		
【参考書】 田川皓一、池田学(編)「神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価」西村書店(2020/9/2) ¥7,480(税込) 山鳥重(著)「神経心理学入門」医学書院(1985/1/1) ¥7,040 Newton 別冊ムック「脳とは何か」(株)ニュートンプレス(2019/12/5) ¥1,980(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 本学GPA評価基準に従う。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				70				30	100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	失認：感覚知覚機能と高次脳機能、支援・対応法 視覚失認・聴覚失認・触覚失認・身体失認 各失認のスクリーニング検査	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
2	注意障害：注意機能と高次脳機能、支援・対応法 持続的注意・選択的注意・転導性注意 ・注意の配分	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
3	失行：行為と高次脳機能、支援・対応法 運動失行・観念失行・構成失行・着衣失行等 遂行機能障害と高次脳機能 観察のポイントとリハビリテーション	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
4	失語：言語機能と高次脳機能、支援・対応法 失語症の分類 スクリーニングテスト リハビリテーション 日常生活での配慮	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
5	記憶：記憶障害と高次脳機能、支援・対応法 記憶障害の分類 スクリーニングテスト リハビリテーション 日常生活での配慮	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
6	感情：情動障害と高次脳機能、支援・対応法 社会的行動障害 依存性・退行、欲求コントロール低下、 感情コントロール低下、対人技能拙劣、 固執性、意欲・発動性の低下、抑うつ等	講義	復習（要点の整理）	180
7	発達障害：発達期の課題 生活/修学/就労支援 家族支援	講義	復習（要点の整理）	180
8	認知症：高齢期の課題 生活支援 家族支援	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180

【科目名】 高次脳機能障害評価学Ⅰ（コンピューター評価技法）		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 bm 112	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時)Teamsで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目はビデオ配信授業です。 ・教材の配布はMicrosoft Teamsで配信を行います。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はTeamsを使用して行ってください。) ・必ず配信教材を視聴して課題を実施してください。 ・実習が行われたコマはレポートを提出すること。		
【講義概要】 (目的) 高次脳機能検査として、簡単な器具あるいは検査チャートを使用するなどの方法があるが、近年コンピューターを用いた方法も導入されてきている。この講座では入門者でも簡単に組みめるコンピューターによる高次機能の検査法について紹介し、実際に簡単な高次脳障害検査プログラムを作成することでコンピューター利用の検査プログラムの原理と作成方法を理解します。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) ・代表的な高次脳機能障害の検査を例に取り、コンピューターを使用しプログラムを作成する。 ・初心者でも容易に理解できるコンピューター・プログラム言語であるScratchを使用し検査プログラムを作成する。 ※本講義に使用するコンピューターは、WindowsまたはMac PCを使用します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・高次脳障害評価をコンピューターで検査することの意義を知る。 ・コンピューター利用の高次脳障害評価の原理を理解する。 【行動目標(SBO)】 ・高次脳障害評価の各種検査法について説明できる。 ・簡単なコンピューター利用の高次脳障害評価を作成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配布します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・本科目の受験資格は2/3以上の課題提出が必要となります。 ・成績評価は、レポート90%, 授業に取り組む姿勢10%(課題・ノートの整理状況など)とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			90				10	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・高次脳機能検査の流れとコンピューター使用例 ・授業の進め方を説明する。 (Teamsの使用法を含む)	・講義、演習	・高次脳検査について調べておく。 ・高次脳機能障害の概要について整理する。	180
2	・線分二等分検査プログラムの作成 ・プログラミング環境(Scratch)の整備 ・プログラム作成の基本を学ぶ。	・講義、演習	・線分二等分検査について調べておく。 ・習った機能で自分のプログラムを作ってみる。ノート整理	180
3・4	・単純反応時間測定プログラムの作成 ・時間を測定する技法を学ぶ。 ・抹消テストの作成	・講義・演習	・反応時間と抹消テストについて調べる。 ・課題プログラムを完成させる。 ノート整理	360
5・6	・三次元空間における反応時間測定プログラムの作成。 ・Unityのインストールと基本操作	・講義・演習	・Unityについて調べておく。 ・課題プログラムを完成させる。 ノート整理	360
7・8	・歩行シュミレーション・プログラムの作成	・講義・演習	・Unityの基本操作について復習しておく。 ・課題プログラムを作成する。	360

【科目名】		前頭葉機能・右半球障害		【担当教員】	道関 京子、伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh113	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	伊林：ibayashi@nur05.onmicrosoft.com 道関：doseki@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、来学時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
神経心理学を復習して受講いただきたい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
知識だけでなく、臨床上の具体的・実践的な評価・訓練体系まで深めるため積極的に受講すること。					
【講義概要】					
(目的)					
・ 前頭葉・右半球損傷による言語・精神・行為障害の観察と評価を理解する。					
・ この障害をもった脳つまり生きた人間の力動的脳活動の改善への臨床貢献を考える道筋を把握する。					
・ 当該授業科目と学授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
・ 評価も訓練も、観察的立場と現象学心理学的立場の両面から議論していく。可能な限り実践的な内容とする。					
・ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックは、別に解説コメントの時間を設定する。					
【一般教育目標(GIO)】					
・ 前頭葉・右半球の構造と機能およびその損傷による様々な神経心理学的症状についての知識を深める。					
・ その改善に向けた人間科学的アプローチの道筋を考える力をつける。					
【行動目標(SBO)】					
・ 前頭葉障害で出現する2非流暢タイプ失語症を理解し、さらに他領域の流暢タイプとの構造的問題の違いを理解する。					
・ 前頭葉・右半球機能損傷による精神機能・行為を的確に評価できる。					
・ これら障害に対する臨床貢献の科学的計画が立てられる。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料やプリントを配布する。					
【参考書】					
道関京子：新版失語症のリハビリテーション全体構造法基礎編．医歯薬出版，2016年，¥3,800（税込）					
波多野和夫他：言語聴覚士のための失語症学．医歯薬出版，2002年，¥5,500（税込）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。					
口頭試験と課題発表を課し、その総合で成績評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識		25		25				50
	思考・推論・創造の力		25		25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	右半球障害の臨床症状	講義(伊林)	右半球症状についての予習	180
2	左右の前頭葉で見られる各症状と責任病巣	講義(伊林)	右半球症状についてを復習	180
3	失語症の評価と構造的訓練 ・前頭葉・流暢と非流暢分類の問題を考える	講義・討議 (道関)	・発話の流暢性問題を復習する。 ・各研究者の失語分類の考え方を調べ、臨床上と合わせて考えておく。	220
4	失語症の評価と構造的訓練 ・分類について討論 ・前頭葉・Broca失語の構造的評価 ・質の異なる単位への移行障害に対する訓練	講義・討議 (道関)	・Broca失語の評価・訓練について復習する。 ・移行障害に対する訓練を立案する。	220
5	失語症の評価と構造的訓練 ・Broca失語訓練について討論 ・前頭葉・超皮質性運動失語の構造的評価 ・内言障害に対する訓練	講義・討議 (道関)	・超皮質性運動失語の評価・訓練について復習する。 ・内言障害に対する訓練を立案する。	220
6	失語症の評価と構造的訓練 ・超皮質性運動失語訓練について討論 ・前頭葉非流暢性失語と他領域失語	講義・討議 (道関)	前頭葉非流暢失語と他領域失語との違いについて個別にまとめて学習する。	220
7	前頭葉・右半球損傷による精神機能の問題 精神機能障害に対する構造的訓練	講義・討議 (道関)	前頭葉・右半球損傷による精神機能障害についてまとめて学習する。	220
8	前頭葉・右半球損傷による行為障害 行為障害に対する構造的訓練	講義・討議 (道関)	前頭葉・右半球損傷による行為障害についてまとめて学習する。	240

【科目名】 注意・記憶・行為・遂行機能障害		【担当教員】 道関 京子
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dBmh 114	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	doseki@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、水曜17～22時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高次脳機能「言語・注意・記憶・行為・遂行機能・その他」の学部的知識・基礎的知識は前提とする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 積極的な姿勢で受講すること。		
【講義概要】 (目的) ・高次脳機能の各障害について、その共通する基盤である自己受容感覚(自己表象・身体図式)の重要性を理解する。 ・その基本を踏まえたリハビリテーションや発達支援を考えて行ける能力を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を統合する力を培う。 (方法) ・高次脳機能およびその発達のそれぞれを支える意識(随意性)と知覚の中心要素である自己受容感覚から再考察する。 ・さらに、各学術界で用いられている用語「固有感覚、身体図式、身体イメージなど」を自己受容感覚の階層性の違いとして捉える現代の主流な研究潮流を紹介する。 ・テキストに限定せず、up-dateな文献も毎回追加する。 ・課題やレポート等に対するフィードバックは、講義中に解説していくほか、別時間をもって解説する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・高次脳機能を定義するためにも、その障害の基盤となる自己受容感覚(身体図式、自己意識)と障害全体を理解する。 ・現代人間科学の主要テーマを真に理解するため、自己受容感覚の最新の研究を理解する。		
【行動目標(SBO)】 ・高次脳機能の基軸である自己受容感覚と、その一般用語「固有感覚、身体図式、身体イメージ、自己表象、1人称的自己等」について説明できる。 ・自己受容感覚(身体図式、自己意識)の病理について説明できる。 ・高次脳機能障害研究およびリハビリテーションにおける自己受容感覚の重要性を理解し、その活用を編成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・資料を配布する		
【参考書】 ・大東祥孝、身体図式、講座 精神の科学(4)、209-236、岩波書店、1983年(資料として配布する) ・Gallagher S: How the Body Shapes the Mind. Clarendon Press, 2005. ・市川 浩：精神としての身体。講談社学術文庫、1992年、¥6,840(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 講義中に実技(討議による口述試験)を行い成績評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識		25		25				50
	思考・推論・創造の力		25		25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	- 講義概要の説明 - 高次脳機能の定義 - 高次脳機能の根底を支えるものは何か	講義・討議	資料を復習する。 特に高次脳機能の定義を確実に説明できるようにする。	220分
2	自己受容感覚の重要性 学术界によって様々な用語で研究されている理由と階層性概念	講義・討議	資料を復習する。	220分
3	身体図式概念が必要だった神経心理学研究の歴史	講義・討議	神経心理学の研究を復習し、身体図式障害と注意・記憶・行為・遂行機能障害への関わりについて調べる。	220分
4	身体図式の病理 - 身体失認 - 臨床討議(口述試験)	講義・討議	- 身体失認について復習する。 - 心理的身体と身体知について予習する。	220分
5	身体図式の病理 - 幻影肢など心理的身体と身体知 - 臨床討議(口述試験)	講義・討議	- 幻影肢など心理的身体と身体知について復習する。 - 病態失認について予習する。	220分
6	身体図式の病理 - 病態失認 - 臨床討議(口述試験)	講義・討議	- 病態失認について復習する。 - Coslettの研究(資料)について予習する。	220分
7	近年の研究レビュー - Coslett HBを中心とした自己意識の3区分と高次脳機能の関係 - 臨床討議(口述試験)	講義・討議	3区分自己意識の復習をする。 - Gallagherの研究(資料)について予習する。	220分
8	- Gallagher Sのembodied cognition理論 - 自己意識や高次脳機能に対する身体の役割重視 - 画像で分かった自己意識の運動による拡張 - 運動である自己意識の臨床討議	講義・討議	Gallagherのembodied cognition理論について復習する。	220分

【科目名】失語・失読・失書		【担当教員】道関 京子	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmhs 117	(メールアドレス)	
【開講時期】後期	【選択必修】選択	doseki@nur.ac.jp	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、火曜17～19時	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) (受講のルールに関わる情報・予備知識)			
【講義概要】 (目的) ・高次脳機能障害の代表として失語症・失読症・失書症を構造的に理解する。 ・流暢・非流暢判断の土台である発話文とは何かを科学的に理解し、リハビリテーションに活用する力を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) ・失語・失読・失書の問題を構文論から考えて展開する。 ・講義ごとに症例検討し高次脳機能へのリハビリテーションの臨床研究も共に考えていく。 ・課題やレポート等に対するフィードバックの方法は、質問や意見およびレポート課題に対して解説し、時間外にも延長し十分時間をとる。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・失語の構造について知るために、構文（統語）の観察が言語リハビリテーションの土台となることを理解する。			
【行動目標 (SBO)】 ・失語症の各症候群の鑑別ができる。 ・失語症各タイプの統語構造の問題の差について説明できる。 ・失語症のリハビリテーションの基礎を説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 ・教科書；渡辺実、国語文法論、笠間書院、1997年、¥1,760（税込） ・適時、資料を配布する。			
【参考書】 ・Luria AR、神経心理学の基礎-脳のはたらき、鹿島晴雄訳、創造出版、2019年、¥8,800（税込） ・道関京子、新版 失語症のリハビリテーション 全体構造法、基礎編・応用編、医歯薬出版、2016年、¥4,180・¥4,400(税込)			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 課題発表50%、レポート50%の割合で成績評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	50				100
評価指標	取り込む力・知識			25	25				50
	思考・推論・創造の力			25	25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	- 失語症研究の課題と問題点 - 失語症のタイプ分類の意味と目的 タイプ診断、流暢/非流暢分類・古典分類ほか - 分類の基本である発話とは何か	講義・討議	失語分類とその神経学的領域との関連についてか復習する。	220分
2	- 発話文の構文 - 構文とは語が文中で果たす役割であり、語の文中機能から失語症の各タイプの問題を理解する	講義・討議	教科書(p3-18)と資料を復習する。	220分
3	- 統叙・陳述の機能 - 叙述(命題・情報)と陳述(モダリティ)の理解とその障害	講義・討議	教科書(p19-55)と資料を復習する。	220分
4	- 連用・連体の機能 - 日本語格関係の理解とその障害(失文法)	講義・討議	教科書(p56-89)と資料を復習する。	220分
5	- 誘導の機能 - 陳述副詞などの理解とその障害(TCM失語)	講義・討議	教科書(p129-146)と資料を復習する。	220分
6	構文論を生かした失語症リハビリテーションを考える1 非流暢失語に対して述部および陳述の重視	講義・討議	失語症のリハ応用編(p34-49)と資料を復習する。	220分
7	構文論を活用した失語症リハビリテーションを考える2 求心性運動失語やウエルニッケ聴覚-記憶型失語の把持力改善に対して構文論の活用	講義・討議	失語症のリハ応用編(p49-54)と資料を復習する。	220分
8	構文論を活用した失語症リハビリテーション3 健忘失語に対する陳述の活用	講義・討議	失語症のリハ応用編(p81-90)と資料を復習する。	220分

【科目名】		認知科学・認知機能障害		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmh205	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火曜日～木曜日 13：30～16：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
学部で履修した神経学や神経解剖学を予習しておくことが望ましい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
その日学んだ事柄について頭の中で整理できるまで十分復習する。					
【講義概要】					
(目的)					
記憶障害や行為・遂行機能障害、失語症等を含む高次脳機能障害に罹患し、日常生活及び社会生活に支障をきたす認知症について包括的に学ぶ。また、認知症の病態を検索するためのWAIS-R, Wisconsin Card Sorting Test, 及びCDR等種々の神経心理学検査法を履修する。認知症患者の行動を分析し、脳血管性認知症と変性疾患による認知症との鑑別についても学ぶ。					
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
さらに各種の検査法を用いて認知症の症状を抽出し、それらの症状についての対応を学ぶ。そのうえで認知症の症状を段階的にとらえ、家庭内や地域におけるリハビリテーションの可能性について各ステージ毎に模索する。加えて認知症患者の治療法についても種々の文献検索等を通して実践的に学ぶ。					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】					
質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・認知症患者の病態について、疾患別・原因別に分けてそれぞれの障害像を把握する。					
【行動目標 (SBO)】					
・認知症患者に役立つトレーニング機器の研究及び開発を心がける。					
【教科書・リザーブドブック】					
プリント配付、パワーポイントによる講義					
【参考書】					
「痴呆の臨床」 目黒謙一著 2004年（医学書院）2800円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。試験80％，授業・課題への取り組み20％の割合で総合的に評価を行う。					
1日分の講義を欠席し，出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80						20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	認知症とは、 記憶障害 認知症の定義と評価法	講義	WAIS・MMSEなどの知能および認知検査の復習	220
2	血管性認知症と変性疾患による認知症。 見当識障害と視空間機能の障害 血管性認知症および変性疾患で生ずる認知症の成立機序を学ぶ	講義	脳血管障害や変性疾患の類型と特質を知る。	220
3	行為障害 認知症の評価（実践Ⅰ） 行為障害の病態を知る。 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
4	認知症の評価（実践Ⅱ） ディスカッション 各種認知機能の検査法を実践する。 3までに学んだ事柄につき検討する。	講義・実技・討議	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
5	認知症の評価（実践Ⅲ） 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
6	認知症の治療・訓練（Ⅰ） 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
7	認知症の治療・訓練（Ⅱ） 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
8	まとめ	講義	復習	220

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 姿勢コントロール (Jane Johnsonn著 武田功 弓岡光徳監訳「姿勢コントロール」	講義	解剖、運動学の復習	220分
2	筋性疼痛症候 小林紘二 緒「筋性疼痛症候の臨 床観察(上巻)」	講義	解剖の復習	220分
3	殿筋からのアプローチ John Gibbons著 木場克 己監訳「強める!殿筋」	講義	解剖の復習	220分
4	同上	同上	同上	220分
5	変形性関節症 井原秀俊、加藤浩、木藤伸宏編集 「多関節運動連鎖から見た変形性関節症の保存療 法」	講義	運動学の復習	220分
6	体幹と骨盤評価 鈴木俊明監修「体幹と骨盤の評 価と運動療法」	講義	解剖の復習	220分
7	同上	同上	同上	220分
8	東洋医学的アプローチ 向野義人、松本実由季、 山下なぎさ 著「M-Test 経絡と動きでつかむ症候 へのアプローチ」 まとめ	講義	解剖の復習	220分

【科目名】		地域・老年期リハビリテーション論		【担当教員】	小林 量作、松林 義人
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh 119	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 小林：(火)～（木）12:30～13:30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】					
1. 小林担当の講義課題について：各自のレポートは全学生を統合して教員のコメントも加えて返却する。					
2. 松林担当の講義課題について：高齢者の医学的トピックス1～6の中でテーマを一つ選択し、レポート課題を提出する。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
1. 欠席は事前に教員へ連絡する。予習では最低1つの質問を考えておき、討論授業では最低1回の発言をする。					
【講義概要】					
(目的)					
1. 老年期（高齢者）に伴う様々な医学的問題、地域リハビリテーション（理学療法、作業療法など）の実際について、教員の講義と学生との討論による方法で学習する。					
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】					
専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培い、問題解決できる能力を身に付けることで、社会に貢献する。					
(方法)					
1. 大学院では、学生自身の研究テーマの視点から積極的に討論に参加する。					
2. 教員への質問、意見は教員のアドレスに送信する。					
3. 小林、松林の講義は、原則として交互（同一教員が隔週となる）に行われる。					
【一般教育目標 (GIO)】					
1. 超高齢社会の現状、高齢者の介護予防、地域包括ケアシステムを中心とした地域リハビリテーション（以下、リハ）の考え方、および最近のロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなどのトピックスについて理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
1. 超高齢社会の現状と課題について説明できる。					
2. 老年症候群、ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなど最近のトピックスについて学習する。					
3. 地域リハビリテーションの考え方、実際について学習する。					
【教科書・リザーブドブック】					
指定なし。 授業テーマに応じて資料を提供する。					
【参考書】					
牧迫飛雄馬、他、編、『高齢者理学療法』2017. 東京. 医歯薬出版.					
牧田光代、他、編、『地域理学療法』（第4版）2017. 東京. 医学書院.					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。					
2. 成績評価は、レポート・出欠により総合的に評価する。					
3. レポート（80％）、出席・授業への取り組みなど（20％）で評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 超高齢社会の課題 ・授業の進め方、履修学生の紹介など ・社会的問題、医学的問題	講義(小林)、 講義(松林)	予習	160分
2	高齢者の医学的トピックス1 ・老年症候群	講義(松林)	予習	160分
3	高齢者の医学的トピックス2 ・ロコモティブ症候群	講義(松林)	予習	160分
4	高齢者の医学的トピックス3 ・サルコペニア	講義(松林)	予習	160分
5	高齢者の医学的トピックス4 ・フレイル	講義(松林)	予習	160分
6	高齢者の医学的トピックス5 ・転倒骨折	講義(松林)	予習	160分
7	高齢者の医学的トピックス6 ・閉じこもり、認知症 ・レポート課題について	講義(松林)	予習	160分
8	地域リハビリテーションとは ・地域リハの定義・範囲、CBR、地域包括ケアシステム	講義(小林)、討 論(Web)	予習	160分

9	地域リハと予防 学生発表 ・予防とは、地域「通いの場」など	講義(小林)	予習	160分
10	訪問理学療法 ・訪問理学療法の実際、事例検討など	講義(小林)	予習	160分
11	通所理学療法 ・通所理学療法の実際、事例検討など	講義(小林)	予習	160分
12	地域リハのリスク管理 ・リスク管理とは、在宅でのリスク管理	講義(小林)	予習	160分
13	地域リハと住宅改修□ ・住宅改修の実際	講義(小林)	予習	160分
14	地域リハと福祉用具□ ・福祉用具の定義・範囲、実際	講義(小林)	予習	160分
15	授業全体のまとめ ・これまでの授業での質問・討論	講義(小林)	予習	160分

【科目名】		運動機能障害特論（運動器・スポーツ障害）		【担当教員】	栗生田 博子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	mh 120	(メールアドレス) aoda@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月曜日12:45～13:15	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 運動器疾患やスポーツ傷害のリハビリテーション，もしくは障がいの有無を問わない運動やスポーツの実践に興味のある院生の受講を望みます. 運動機能科学コースの院生は選択科目となります. (受講のルールに関わる情報・予備知識) 事前に課題を提示することがあるので，その際は必ず実施してください. 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 症例検討やレポートの内容についてディスカッションを行います.					
【講義概要】 (目的) 運動器疾患，特にスポーツ疾患の理学療法評価法，臨床推論に関する内容とあわせて，様々な対象者のスポーツに関し，スポーツ実施環境や身体機能評価方法などについて概説する．症例検討や誰もが参加・活動できるインクルーシブスポーツと理学療法との関連について論議，考察する. 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関わる多様な課題を発見分析し，自ら解決する能力を培う. (方法) 健常者・障がい者を問わず身体活動を展開するための手段として，理学療法の役割や可能性を検討し，広げていきたいと考えています.					
【一般教育目標(GIO)】 ・臨床現場に赴き，スポーツに関連したリハビリテーションや身体活動を実践するための基本的な知識を習得する.					
【行動目標(SBO)】 ・主に運動器疾患の特性を理解し，臨床推論を基盤として対応する理学療法の役割について考えることができる. ・障がいの有無や性別，年齢を問わず誰もが参加できるインクルーシブスポーツを普及・発展させるための方策について，検討することができる.					
【教科書・リザーブドブック】 特に指定しない					
【参考書】 講義の中で随時紹介する					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う. レポート評価にて成績判定を行う.					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (1) 運動器疾患のリハビリテーションに必要な評価の基本について概説する	講義	準備) 症例検討の準備	180
2	運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (2) 運動器疾患のリハビリテーションに必要な評価の基本について概説する	講義	準備) 症例検討の準備	180
3	運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (3) 運動器疾患, 特にスポーツ傷害のリハビリテーションに関する事例を概説する	講義	準備) 症例検討の準備	180
4	症例検討 (1) 臨床で経験した症例について, ディスカッションを通じ検討を行う	講義	事後) 症例検討の内容をまとめる	180
5	症例検討 (2) 臨床で経験した症例について, ディスカッションを通じ検討を行う	講義	事後) 症例検討の内容をまとめる	180
6	障がい者のスポーツと理学療法 障がい者のスポーツとそれに関わる理学療法に関する事例を概説する	講義	事後) レポート作成	180
7	インクルーシブスポーツと理学療法 (1) 理学療法をベースとして, 体育・スポーツ現場に理学療法士が関わる可能性について概説する	講義	事後) レポート作成	180
8	インクルーシブスポーツと理学療法 (2) 理学療法をベースとして, 体育・スポーツ現場に理学療法士が関わる方法や内容を具体的に検討する	講義	事後) レポート作成	180

【科目名】生活機能障害作業療法学		【担当教員】藤本 聡
【授業区分】専門科目	【授業コード】bmh121	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	shibui@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 火・水・木 12：40～13：30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) (受講のルールに関わる情報・予備知識) 相互交流型の授業とします。予習を含め積極的に参加してください。		
【講義概要】 (目的) ・生活機能とは何か、生活機能障害とは何かについて理解し、生活機能障害を持つ者への支援の仕方について学ぶ。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) その年の履修者数によって、日程や授業の進め方を決めます。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 講義の中で個別に対応する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・「人が生きること」を包括的・総合的にとらえる見方・考え方の「共通言語」を身につける。 ・対象者にとって意味のある生活を再構築できる支援のあり方を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・対象者にとって意味のある生活を適切に評価できる。 ・意味のある生活を再構築するための支援のあり方を検討することができる。 ・事例を通して、生活行為向上マネジメントの考え方を理解する。		
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。		
【参考書】 資料を中心とし、随時紹介します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 レポート50％、授業・課題への取り組み50％の割合で総合的に評価を行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50				50	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							50	50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生活機能の理解 生活機能とは ICFと背景と特徴	講義	講義内容に関することにていて、予習・復習を行ってください	180分
2-3	「生活障害」における実践例 ・事例をICFにまとめる	講義、演習	講義内容に関することにていて、予習・復習を行ってください	360分
4	意味のある作業や生活行為について 生活行為向上マネジメント(MTDLP)解説	講義、演習	講義内容に関することにていて、予習・復習を行ってください	180分
5-6	「生活障害」における実践例 ・事例をMTDLPにまとめる	講義、演習、ディスカッション	講義内容に関することにていて、予習・復習を行ってください	360分
7-8	「生活障害」における実践例 ・事例をMTDLPにまとめる	講義、演習、ディスカッション	講義内容に関することにていて、予習・復習を行ってください	360分

【科目名】生活環境科学（住環境・ADL）		【担当教員】小林 量作
【授業区分】専門科目	【授業コード】dmh 122	(メールアドレス) r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 小林：(火)～（木）12:30～13:30
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 1. 学生のレポートはチェックした後にフィードバックする。レポートは学生間でも共有できるように検討する。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 1. 欠席は事前に教員へ連絡する。予習では最低1つの質問を考えておき，討論授業では最低1回の発言をする。		
【講義概要】 (目的) 1. 「活動」（activities）において生活環境と日常生活活動（ADL）は対の関係であり、ADLが重度であっても生活環境を整備することで自立度を軽減できる。そのような生活環境とADLの関連について学習する。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培い、問題解決できる能力を身に付けることで、社会に貢献する。 (方法) 1. テキストの輪読により基本知識を身に付け、授業ではテーマに沿った討議を行う。 2. 教員への質問、意見は教員のアドレスに送信する。		
【一般教育目標 (GIO)】 1. ADL、生活環境の基本知識を学習し、基本動作、身の回り動作、コミュニケーションなどの生活障害が、生活環境との関連で障害増を変化（悪化や改善）させることを学習する。 2. 具体的な事例を検討して生活障害の解決法について学習する。		
【行動目標 (SB0)】 1. 日常生活活動と生活環境の関連について学習する。 2. 国際生活機能分類、日常生活活動学、生活環境（住環境、福祉用具）について理解する。		
【教科書・リザーブドブック】 指定なし。 授業テーマに応じて資料を提供する。		
【参考書】 鶴見隆正、他、編. 『日常生活活動学・生活環境学』2017. 東京. 医歯薬出版.		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。 2. 成績評価は、レポート・出欠により総合的に評価する。 3. 試験（50％）、レポート（40％）、出席・授業への取り組みなど（10％）で評価を行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	25		40				10	75
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	日常生活活動学（ADL）の概論 ・ADLとは、その構造、構成要素、評価について説明する。	講義(小林)	予習	160分
2	ADLと障害構造 ・国際生活機能分類（ICF）、活動と活動制限、環境因子などについて説明する。	講義(小林)	予習	160分
3	生活環境学の概論 ・生活環境とは何か、人的環境、物理的環境、社会的環境について説明する。	講義(小林)	予習	160分
4	住環境整備、生活支援機器 ・住環境とは何か、その改修、関わる職種、効果の考え方について説明する。 ・生活支援機器の総論について説明する。	講義(小林)	予習	160分
5	玄関・アプローチ ・改修の基本と具体例	講義(小林)	予習	160分
6	廊下・階段 ・改修の基本と具体例	講義(小林)	予習	160分
7	浴室 ・改修の基本と具体例	講義(小林)	予習	160分
8	寝室 ・改修の基本と具体例	講義(小林)	予習	160分

9	食堂 ・改修の基本と具体例	講義(小林)	予習	160分
10	昇降機・ホームエレベーター ・改修の基本と具体例	講義(小林)	予習	160分
11	車いす・移動機器 ・基本知識の紹介	講義(小林)	予習	160分
12	歩行補助具 ・基本知識の紹介	講義(小林)	予習	160分
13	事例1 ・具体的改造例を考える。	講義(小林)	予習	160分
14	事例2 ・具体的改造例を考える。	講義(小林)	予習	160分
15	事例3 授業全体のまとめ	講義(小林)	予習	160分

【科目名】物理療法学特論		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】専門科目	【授業コード】m 123	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 9・10時限 メールで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この授業はWEB授業対応授業です (Office365の設定が必要です)。 【課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法】 ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。 ・課題はMicrosoft Teamsを使用して提出してください。 ・必ず事前学修を実施してください。		
【講義概要】 (目的) この講座では、物理療法の各種の治療手技を概説すると共に最近の物理療法の進歩についても解説していく。授業は講師による講義の後、受講学生に与えられた課題の発表・討論(インターネットで受講ではレポート提出)という形で進めていく。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) この科目は講義が中心となります。 最後の2コマは学生の課題発表となります。課題の内容は講義の中で説明します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・物理療法の各種の治療技法を知る。 ・物理療法の最近の進歩について知る。 【行動目標(SB0)】 ・物理療法の各種の治療手技について説明できる。 ・物理療法の最近の進歩について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・Michelle H. Cameron編、渡部一郎 監訳、普及版EBM物理療法 原著第2版、医歯薬出版株式会社、2006年、¥8,600+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%, 発表30%, 授業に取り組む姿勢20%(宿題、ノート整理状況など)とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	30			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			50	30			20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション (Temaの使用方法を含む) ・温熱療法・寒冷療法の最近の進歩	・授業の進め方を説明する。 ・講義	・Teamsの利用法を確認しておく。 ・課題を作成と提出	120分 60分
2	・高周波療法・磁気刺激療法の最近の進歩	・講義	・高周波療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
3	・光線療法の最近の進歩	・講義	・光線療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
4	・超音波療法の最近の進歩	・講義	・超音波療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
5	・通電療法・バイオフィードバック療法の最近の進歩	・講義	・通電療法・バイオフィードバック療法とは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
6	・力学的エネルギーを用いた物理療法 ・CPM療法の最近の進歩	・講義	・CPMとは何か調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
7 -8	・学生課題発表 課題をPowerPointで作成し提出することで代替する。 人数により、水治療法を用いた物理療法	・発表	・発表は自分が興味のある療法についてまとめる。 ・ノート整理	各120分 各60分

【科目名】		精神・認知機能障害作業療法学		【担当教員】	長谷川 裕
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	bmh124	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月－金 13時～13時20分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
精神・認知機能障害、精神疾患についての知識を有すること。 精神障害リハビリテーションに興味があること。 「ひと」に興味を持ち、「ひと」を奥深い存在と思えること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義形式でなく、参加型授業です。予習を行い、自ら学習したことを発表してもらいます。 積極的な受講態度を期待します。					
【講義概要】					
(目的)					
精神・認知機能障害に対する治療構造、場についての思いを巡らし、理解を深め、臨床において対象者の状態、目的に適った治療構造、場とは何かを考え創出できること。人が場との相互作用で何を感じ体験するかについて考えること。 当該科目と学位授与方針等との方針との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」					
(方法)					
その年の履修者数によって、日程や授業の進め方を決めます。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 講義の中で個別に対応する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・ 治療構造、場についての見方、考え方を身に付けける。 ・ 治療構造、場が治療としてどのように機能するかを理解できる。					
【行動目標 (SBO)】					
・ 治療構造を評価することができる。 ・ 対象者の状態、目的と治療構造とを結びつけ適切な支援の在り方を検討することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特になし					
【参考書】					
人と集団・場 新版，山根寛，三輪書店，2018					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 レポート50％、授業・課題への取り組み50％の割合で総合的に評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50				50	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力							20	20
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	治療構造、場とは	ディスカッション、講義	予習（治療構造について自習する）	360分
3-4	予習した文献の紹介、それについてのディスカッション①	演習、ディスカッション	予習（治療構造に関する文献を検索し、要約する）	360分
5-6	予習した文献の紹介、それについてのディスカッション②	演習、ディスカッション	予習（治療構造に関する文献を検索し、要約する）	360分
7-8	事例を想定し、それに対する治療構造についてのディスカッション	演習、ディスカッション	予習（事例を想定し、それに対する治療構造を考える）	360分

【科目名】		作業活動分析学		【担当教員】	長谷川 裕
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	m 125	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月－金 13時～13時20分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】					
課題のフィードバックは適宜、講義中に行う。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
作業に興味を持てることが望まれる。					
【講義概要】					
(目的)					
作業活動を通して作業を分析することができるようになる。					
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】					
専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。					
(方法)					
実際に作業活動を体験し、自らの体験を通して作業分析を体験します。体験を通して理解を進めてもらえたらと思います。					
【一般教育目標(GIO)】					
作業療法分野における作業活動分析を実際に体験し、それを通して作業活動を分析できる。					
【行動目標(SB0)】					
1. 作業活動を体験し、作業の定義を理解することができる。					
2. 作業活動の工程を分析することができる。					
3. 作業活動を身体的、心理的、社会的側面から分析することができる。					
4. 作業分析を通して、対象者への作業療法的アプローチを考えられるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料を配付します。					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
基礎知識を提供するので、作業体験を通して（20％）、作業分析とは何かを理解できるようになる。結果として、作業への理解、作業分析、作業の適応をいかに理解したかをレポートに表現（60％）できる。作業分析についての発表を通して理解度を評価する。（20％）					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20	20			100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40	10				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	作業・作業療法とは	講義	講義について復習する	180分
2	包括的作業分析について	講義	講義について復習する	180分
3	作業体験	体験	体験について復習する	180分
4	作業体験・分析表を用いたの包括的作業分析	演習	演習について復習する	180分
5	包括的作業分析発表	発表	発表について復習する	180分
6	限定的作業分析	講義	講義について復習する	180分
7	限定的作業分析（集団療法モデルにおける作業分析）	演習	演習について復習する	180分
8	作業と生活機能の関係について	講義	講義について復習する	180分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経系の基礎知識 脳の構造や機能、脳内ネットワークについて	講義	脳の解剖学について関連書籍にて予習しておくこと	180
2	随意運動に関わる神経機構と制御機構の障害について 脳卒中者の障害の本質である姿勢制御システムとその障害について	講義	姿勢制御システムについて関連書籍を参考にまとめておくこと(復習)	90 90
3	脳卒中に対するクリニカルリーズニング クリニカルリーズニングについて	講義	クリニカルリーズニングについて予習しておくこと	90 90
4	障害別クリニカルリーズニング 皮質脊髄路障害のクリニカルリーズニング	講義	皮質脊髄路障害について予習しておくこと	90 90
5	脳卒中者に対する治療技法① 従来からの技法について	講義	脳卒中片麻痺者に対する治療として、従来から用いられている技法について調べておくこと(予習)	90 90
6	脳卒中に対する治療技法② ロボットを使用した技法	講義	ロボット技術がどのように活用されているか講義内容をまとめておくこと(復習)	90 90
7	神経症候ケーススタディ 前頭葉・頭頂葉・後頭葉に起因する症例を中心にケーススタディ	講義	講義内容について復習	90 90
8	総括 講義全体のまとめと、脳卒中リハビリテーションの今後について —近年の知見も踏まえて—	講義	課題に対して、レポートにまとめる	90 90

【科目名】動作測定技法 I		【担当教員】木村 和樹
【授業区分】専門科目	【授業コード】dm127	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	k. kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時) Teamsで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この授業はWEB授業対応授業です (Office365の設定が必要です)。 ・演習に関しては対面で行いますが、WEBで受講される場合はMicrosoft Teamsを使用し演習で計測したデータの配布を行います。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はMicrosoft Teamsを使用してください。) ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。		
【講義概要】 (目的) この講座では、動作分析で用いる加速度、重心動揺、静止画などから身体の動きを分析する手法を学びます。また測定の基本原則について解説していきます。身体の動きを数値化されたデータにして研究に応用します。 当該授業科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う。		
(方法) 実際に計測を行い、データを分析する。 自身で測定したデータを分析して発表を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 ・動作分析の基本的原理を理解する。 ・加速度、重心動揺、呼気ガス分析装置の測定手技について理解する。		
【行動目標(SBO)】 ・動作分析の基本的原理を説明できる。 ・加速度、足底圧、重心動揺の測定が行える。 ・画像から姿勢を分析することができる。 ・呼気ガス分析装置の測定が行える。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%, 発表30%, 授業に取り組む姿勢20%(宿題・ノートの整理状況など)とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	30			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			50	30			20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・動作分析の基礎的理解	(講義・演習) ・授業の進め方を説明する。	・筋電図について調べておく。 ・課題作成と提出	120分 60分
2	・加速度計を用いた測定	(講義・演習)	・加速度計の測定方法について調べておく。 ・課題作成と提出	60分 120分
3・4	・足底圧、重心動揺計を用いた測定	(講義・演習)	・重心動揺の測定方法について調べておく。 ・課題作成と提出	120分 240分
5・6	・静止画からの姿勢分析	(講義・演習)	・image-Jについて調べておく。 ・課題作成と提出	120分 240分
7・8	・動作時の呼吸機能の分析	(講義・演習)	・呼気ガス分析装置について調べる。 ・課題作成と提出	120分 240分

【科目名】動作測定技法Ⅱ		【担当教員】北村 拓也
【授業区分】専門科目	【授業コード】m207	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	kitamura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 木10:00-19:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は基本的には対面で行いますが、状況に応じてweb (TeamsあるいはZoom) で行います。 また、実際に機器を使用して行うコマもあるため、その際の機器使用には一定の配慮(取扱注意)が必要です。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義だけのコマはなく、基本的には講義+ディスカッション構成と考えてください。多くのディスカッションを通して双方向的な意見交換を求めます。		
【講義概要】 (目的) 本講義で取り扱う内容は①超音波エコー②筋電図の二つです。これらの測定方法から原理、得られる情報を学びます。 また、測定方法だけでなく得られた情報をさらに思考発展できるよう、関連文献を読み、理解します。		
(方法) 当日配布する資料を確認しながら進めていきます。資料は科目Teamあるいはメールにて事前あるいは当日に配布します。また、講義スケジュールにあるように院生からの文献抄読がありますが、和文・英文は問いません。可能であれば英語にチャレンジすることを推奨しますが、任意としますし、それによる成績への影響はありません。 なお、対面講義を基本としていますが状況に応じてweb (TeamsあるいはZoom) にて行う場合もあります。 最終課題であるレポートは提出後コメントを付して返却します。		
【一般教育目標(GIO)】 1. 超音波エコーの原理を理解する。 2. 超音波エコーの基本的な測定方法を理解する。 3. 筋電図の原理を理解する。 4. 筋電図の基本的な測定方法を理解する。		
【行動目標(SBO)】 1. 超音波エコーを用いて対象となる組織の同定ができる。 2. 筋電図を用いて、対象となる骨格筋の筋活動を測定することができる。 3. 得られたデータを分析できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて資料を配布します。		
【参考書】 必要に応じて資料を配布します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法、試験、評価規程及びその施行細則に従う。 ・学位授与の方針と当該授業科目の関連：2「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う」 ・成績評価の内訳は下記の通りです。 レポート：90点分、実技：10点分。 レポート：科目内容を含んだレポート課題を最終コマに発表します。実技：講義中の使用機器に対する態度を評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90		10			100
評価指標	取り込む力・知識			30		5			35
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10		5			15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	1) 科目オリエンテーション 2) 超音波エコーの原理とわかること 3) 超音波エコー使用 (概要)	対面あるいはweb 講義	超音波エコー測定により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく.	180
2	1) 超音波エコー使用 (筋評価) 2) 超音波エコー使用 (靱帯評価) 3) 超音波エコー使用 (神経評価) 4) 超音波エコーから得られるデータの分析	対面あるいはweb 実技	超音波エコー測定により得られるデータ (エコー画像) を読み取れるようにする.	180
3	1) 超音波エコーを使用した文献の抄読 (教員より紹介)	対面あるいはweb ディスカッション	教員より紹介された文献内容の復習を行い, 次回講義に備える.	180
4	1) 超音波エコーを使用した文献の抄読 (院生より紹介)	対面あるいはweb ディスカッション	超音波エコーを用いている文献を事前に読み, 当日その内容を紹介する.	180
5	1) 筋電図の原理とわかること 2) 筋電図使用 (概要)	対面あるいはweb 実技	筋電図測定により得られる情報を可能な範囲で事前確認しておく.	180
6	1) 筋電図使用 2) 筋電図から得られるデータの分析	対面あるいはweb 実技	筋電図測定により得られるデータ (波形) を読み取れるようにする.	180
7	1) 筋電図を使用した文献の抄読 (教員より紹介)	対面あるいはweb ディスカッション	教員より紹介された文献内容の復習を行い, 次回講義に備える.	180
8	1) 筋電図を使用した文献の抄読 (院生より紹介)	対面あるいはweb ディスカッション	筋電図を用いている文献を事前に読み, 当日その内容を紹介する.	180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 痛みについて	講義	生理学の復習	220分
2	体性－自律神経反射の生理学	講義	生理学の復習	220分
3	痛みの心理・環境・行動的側面、 プラシーボ効果、痛みの評価、 治療における基本理念	講義	生理学の復習	220分
4	徒手療法、物理療法、 慢性痛に関する理学療法効果	講義	物理療法の復習	220分
5	筋・筋膜に対する徒手療法	講義	解剖、生理学の復習	220分
6	同上	実技	解剖、生理学の復習	220分
7	同上	実技	実技の復習	220分
8	筋膜からのアプローチ	講義	解剖の復習	220分

【科目名】生活支援デバイス論（補装具など）		【担当教員】藤本 聡
【授業区分】専門科目	【授業コード】dm 129	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月～金、13：00-13：25
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 主に環境因子の観点から生活機能に障害をきたした人の気持ちになって生活を考えましょう。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ディスカッション時に積極的に参加してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション専門職は、障害を個人の要因（心身機能・身体構造、年齢など）として捉えるとともに、生活環境からとらえています。本講義では、生活環境を、住居や公共交通機関など物理的環境や、福祉用具の活用による代償的アプローチも行っています。これらの生活環境の整備・改善また福祉用具の活用による生活の改善方法について修得する。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 住環境整備や福祉用具導入は、リハビリテーション専門職以外に、建築家、工務店、ケアマネージャー、介護福祉士など多くの専門家が関わっています。これらの専門職連携についても感じてもらえたらと思っています。		
【一般教育目標(GIO)】 障害者、高齢者を取り囲む快活環境のバリアーを理解し、QOL向上のための生活環境整備や福祉用具の活用方法を習得し、障害者の生活支援ができることを目的とする。		
【行動目標(SBO)】 ・生活環境の概念について理解する。 ・住環境整備の意義や内容を説明できる。 ・ADLの中で活用される福祉用具を挙げることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じプリントを配布します。		
【参考書】 大橋謙策 編：ICFの視点に基づく自立生活支援の福祉用具。中央法規出版。2021.3000円（税別）。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・評価規程およびその施行細則に従う。 福祉用具と住宅改修に関するレポート50%。その他（発表力、学修に取り組む姿勢）50%。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50				50	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力							20	20
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	オリエンテーション 生活環境、福祉用具、住宅改修の概念 福祉用具の各種について理解する ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバー サルデザイン・QOLの概念	講義、福祉用具 体験	講義内容について、予習・復習	360
3、4	暮らしと生活環境 日本家屋を見学し、日本家屋における問題点を理 解する（オンデマンド受講者は、内容を変更しま す）	講義、見学、演 習、発表、ディ スカッション	講義内容について、予習・復習	360
5、6	事例検討 住宅改修された家屋を見学し、検討する（オンデ マンド受講者は、内容を変更します）	見学、演習、発 表、ディスカッ ション	講義内容について、予習・復習	360
7、8	事例検討 事例について、住宅改修・福祉用具の利用につい て、立案し検討する	見学、演習、発 表、ディスカッ ション	講義内容について、予習・復習	360

【科目名】		運動発達障害特論		【担当教員】	押木 利英子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh 130	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	oshiki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月、水、木 11：00 ～ 16：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。 ＊この科目は小児医療センター等で臨床経験を積んだ実務家教員が担当します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
事前に正常運動発達、運動発達障害に関する知識の整理、及び文献を調べておくことが望ましい。受講者の背景に合わせて、レポートの添削を行う。個人の希望や必要に応じて解説する。【課題】毎回（1～7回）授業の最後に簡単な課題を出す。（200字程度）この課題レポートを作成し、メールで押木宛に送信する。【試験】筆記試験は行わない。最終回後に事例検討レポートを課し、これと毎回提出のレポートとの総合点を試験結果とする。					
【講義概要】					
(目的)					
運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、運動障害児の治療効果検証について理解することを目的にする。また、発達理論や研究法の学習を通して最新の知見を学び、PT、OT、STの視点から小児リハビリテーションあり方について学ぶ。					
(方法)					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 ともに学びましょう！					
【一般教育目標 (GIO)】					
・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。					
【行動目標 (SBO)】					
・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性和具体的な提言が出来る。					
【教科書・リザーブドブック】					
・特になし（講義中に随時紹介する）					
【参考書】					
・特になし（講義中に随時紹介する）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・毎回の授業後課題50%、事例検討レポート50%の提出状況、内容を評価し、単位授与とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	運動発達とは何かその視点 運動発達の機序について概説する	講義	正常運動発達について理解する	180分
2	運動発達の特徴と原理 “動くこと” “動けること” (発達の原点) の意味を考える	講義	発達指標について理解する	180分
3	運動発達障害特論(1) 運動発達と脳の可塑性について ～その可能性と障害～	講義	運動発達の多様性について理解する	180分
4	運動発達障害特論(2) 運動発達の阻害因子の見方と小児理学療法の治療体系	講義	事例を通して小児理学療法の治療体系について理解する。	180分
5	運動発達評価と発達原理 発達検査と評価の方法、 運動学習システムと発達理論	講義	子どものハビリテーションについて考える。	180分
6	私の臨床研究論と紹介 運動発達障害研究に対する私論と今までやってきた研究の紹介と解説	講義	自分自身の研究の意義を考える	180分
7	臨床活動における連携協働の重要性 小児臨床における連携教育(IPE)と連携協働(IPW)の重要性について ～その歴史と現状～	講義	あなたのIPE, IPWを振り返る	180分
8	事例検討 まとめ	事例検討(モジュールを使用して) レポート作成	提示された事例について検討する。	180分

【科目名】心の健康科学総論(心の健康教育に関する理論と実践)		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmHs 131	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「心の健康教育に関する理論と実践」について学びます。「心の健康」は、保健医療、福祉、教育、、産業・労働、そして司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。その他、(心理学専門領域以外の)全てのコースに所属する院生も受講可能です。職場や家庭での日常生活において、良好な人間関係の構築は自身の心と身体の健康、そして生涯の幸福に繋がります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 主体的/積極的に授業へ参加する態度で受講していただきたい。関心あるテーマは自身で情報検索/収集し、問題提起し、意見交換/情報共有していく姿勢を望みます。		
【講義概要】 (目的) 多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が ‘心の病’を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法(ストレス・マネジメント)について、基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識の普及をも図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 当該科目と学位授与方針との関連性;「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、関連資料を配布し、参考文献を紹介していきます。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。		
【一般教育目標(GIO)】 「健康とは何か?」を国際的定義から説明できる。 ストレスが脳/身体/心へ及ぼす影響、そして疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。 【行動目標(SBO)】 ‘いじめ’や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができます。これを行動目標とします。 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレスを知り、適切なマネジメントあるいは支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず、必要な資料は配布する。		
【参考書】 ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳/ストレスの心理学/実務教育出版/1991年/5,872円 厚生労働省「健康日本21(第二次)」内、「こころの健康」を参照のこと。 Newton 別冊ムック「脳と心: 脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) レポート80%、授業への参加態度20%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	健康心理学とは ストレスとは？□ ・「健康」の定義 ・演習：精神健康調査票（GHQ 28） ・ストレッサーとストレス反応	講義	WHO：QOLから「心の健康」を考える	180分
2	ストレスに対する心理的反応 ・不安 ・演習：顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感	講義	顕在性不安尺度(MAS)の結果処理と考察	180分
3	ストレスに対する生理的反応 ストレスによる身体への影響 ・闘争-逃走反応：生理的メカニズム ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援	講義	タイプA行動チェック実施と結果考察	180分
4	PTSD ・ PTSDの定義 ・演習：PTSDチェック ・ PTSDの発症要因 ・発症メカニズム ・ 自然災害とPTSD ・心理学的支援法	講義	PTSDチェックリストから、その発症要因を理解する。	180分
5	ストレスによる健康への影響 ストレス関連疾患 ・パニック障害 ・うつ ・演習：BDI／SDS ・依存症（薬物、アルコール等）	講義	20～30代のワークライフバランスをストレス関連疾患から検討する。	180分
6	ストレス理論 ストレス耐性 ・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す	講義	各学派の考え方から身近なストレス事例を考察する。 心の支援の実践を試みる	180分
7	ストレスコーピング 自殺予防 ・行動療法・運動療法・認知行動療 ・自己コントロール／心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法	講義	各自の日常生活におけるコーピング法を考案する。	180分
8	ライフサイクルとストレス 「健康日本21」にみる「心の健康づくり」□家庭/学校/職場でのストレス ・児童虐待/いじめ/高齢者虐待を考える	講義	いじめの原因・要因を多角的に考察する。以上から、「心の健康づくり」を提言する。	180分

【科目名】		アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh134	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30 他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
特に心理学の専門知識を必要としません。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討する。					
積極的態度で受講していただきたい。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望む。					
試験・レポートのフィードバック方法：レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。					
【講義概要】					
(目的)					
アイデンティティ（自我同一性）の形成過程をライフサイクルの中で講じていく。中心となる概念はErik H. Eriksonの概念である。私は私であるという感覚、この私を自分でしっかりとコントロールして生きていきたいという欲求はどのように形成されてくるのかを考えていく。多様な価値観の中で自由に生きていくことが可能になった現在社会において、このアイデンティティ形成が困難となっている一側面にも言及していく。					
当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。					
毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。					
【一般教育目標(GIO)】					
アイデンティティは、一人で考えて形成されるものではなく、多種多様な人と人との関わりの中で形成されていくものであることが理解できる。また、アイデンティティの概念は固定されたものではなく、生涯にわたって変化していくものであることを理解できる。					
【行動目標(SB0)】					
客観的に自己を認識でき、自己コントロール感がもてる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定せず、必要な資料は配布する。					
【参考書】					
E. H. エリクソン「自我同一性：アイデンティティとライフ・サイクル」(誠信書房) ISBNコード ISBN978-4-414-40246-9					
尾形 和男(編著)「家族の関わりから考える生涯発達心理学」(北大路書房) ISBN 978-4-7628-2520-0 C3011					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。					
試験60%、レポート40%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60						40	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	家族の関りと乳幼児の発達 ・微笑と社会性の発達、ヒトの顔の認識 ・感情の発達、愛着の理論	講義	事後：学習した内容の復習	180分
2	乳幼児の社会性の発達とアイデンティティの形成 ・社会的参照、心の発達 ・自我の芽生え、遊びと仲間関係 ・ことばの発達 ・認知・思考の発達	講義	事後：学習した内容の復習	180分
3	児童期の社会性の発達 ・学校生活のはじまり ・認知・思考の発達 ・仲間関係：ギャングエイジ	講義	事後：学習した内容の復習	180分
4	「名前」とアイデンティティの形成 ・誕生時に命名された「なまえ」がもつ意味 ・毎日、他者から呼ばれる「なまえ」に対して、 「私は何者？」を確認する感覚を考えてみる。	講義	事後：学習した内容の復習	180分
5	思春期・青年期における ・アイデンティティの形成：同一性 ・自我の芽生え（自己概念と自己コントロール） ・家族・友人関係 ・進路選択、恋愛	講義	事後：学習した内容の復習	180分
6	思春期・青年期における ・アイデンティティ形成の困難：拡散 ・学校不適応、無気力 ・モラトリアム	講義	事後：学習した内容の復習	180分
7	成人期における ・アイデンティティの再形成 ・家族・職場の人間関係の構築	講義	事後：学習した内容の復習	180分
8	高齢期における ・アイデンティティの再形成（修正） ・家族・職場の人間関係の変化と適応 ・「私」の記憶	講義	事後：レポート課題	180分

【科目名】		キャリア形成とリハビリテーション心理学(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmH 135	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」について学びます。 他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。健全な「キャリア形成」は生きていく上ですべての人に重要な課題であり、保健・医療・福祉に携わる者にはその適切な支援法も心得ておく必要があります。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
キャリア形成期の身体的・心理的・社会的特徴を概説していく。また、キャリア形成に関するストレス要因と対処法も検討していく。 特に、ハラスメント等の職場でのストレスとその対策、ワークライフバランスと過労死の予防、長期休業の実態とリワークへの復帰支援等にも言及していく。ストレスチェック等は演習形式で実施していく。併せて、障害者の就労支援にも触れていく。				
(方法)				
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 多くの人が、仕事とプライベートの生活が両立しにくい現実に直面しています。男女問わず誰もがやりがいや充実感を感じながら働き仕事上の責任を果たす一方で、子育てや親の介護に要する時間や、家庭・地域・自己啓発等に必要な個人の自由な生活時間が持てることは生きていく上で重要なことです。この仕事と生活の調和を図るためにはどうすればよいのかを特に心理学的支援の側面から考えていきます。また、関連する労働法規等にも触れていきます。				
【一般教育目標(GIO)】				
ワーク・ライフ・バランスを意識し、人生の各段階に応じて多様な生き方を主体的に選択・実現できることを理解する。				
【行動目標(SBO)】				
自身の働き方を熟考するのみでなく、教育・保健医療・福祉・産業等の現場で、心理職の専門家として対象者に適切な就労支援ができる。 「職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」を理解し、適切な支援ができる。 「治療と仕事の両立の支援」の趣旨を理解し、働く場でこころの健康増進を支援できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定せず。資料は配布します。 関連法規等はその都度紹介していきます。				
【参考書】				
内閣府HP「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」 厚生労働省「こころの健康_健康日本21（第二次）」「職場における心の健康づくり」「治療と仕事の両立の支援」「仕事と生活の調和の実現に向けた取組の推進」等、関連する各種施策を参照のこと。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 受講態度20％、レポート80％の割合で評価する。出席点は評価に含めない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	ライフサイクル観 成人期の発達課題 ・恋愛・結婚とキャリア形成 ライフコース 多様な価値観	講義	多様な価値観を受け容れ、共に生きる社会の実現を考える。	180分
2	初期キャリアの形成 ・新社会人のストレス・女性の社会進出 男女雇用機会均等法 M字型カーブ ダイバーシティ	講義	男女が共に協力し合う、一個人を社会全体で支えることは社会の発展に繋がることを理解する。	180分
3	職場・家庭のストレス・家庭生活と仕事・職場におけるメンタルヘルス ストレスチェック制度 ワークライフバランス 子育てとそのストレス	講義	次世代の育成を家庭、職場の両面でバランスよく行うことを社会全体から検討する。	180分
4	働く環境の問題 安全・快適な職場環境づくり 労働安全衛生法 ハラスメント、過労死 パニック障害、うつ、自殺対策	講義	職場の物的・人的環境が人の心身に及ぼす影響について考察する。	180分
5	キャリアの“停滞”への対応・長期休業の実態・職場復帰(リワーク)・治療と仕事の両立 リワーク制度、試し出勤 キャリアコンサルティング 労災障害年金制度	講義	「労災」の定義から、労働環境と疾患発症の関係を考察する。また、その社会的支援法を理解する。	180分
6	職業・社会生活の変化 ・中年期危機 ・退職退職とアイデンティティ 心身の変化	講義	「中年期危機」の要因を生物学的、社会的、心理的各側面から検討する。	180分
7	障害者の就労支援 ・障害の概説と就労支援のポイント 障害者雇用促進法 障害によるキャリア形成における困難 合理的配慮	講義	障害による社会的バリアを可能な限り除去することを検討する。	180分
8	まとめ キャリア形成の軌跡と心の健康 事例検討	講義	レポート課題 ・事例の検討と考察	180分

【科目名】		高齢期とリハビリテーション心理学(福祉分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmHs 209	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「福祉分野に関する理論と支援の展開」について学びます。 他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。「高齢期の課題」は日本社会が抱える喫緊の課題の一つであり、特に保健・医療及び福祉領域で重要な課題です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態度で受講していただきたいです。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 当該科目と学位授与方針との関連性；専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
高齢期の心理社会的課題と必要な支援について講じていきます。高齢期の①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係性の変化について、科学的知見に基づき説明いたします。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。 高齢者の現状や諸問題は現代社会において非常に重要な課題です。幸福な一生を送るために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から熟考することを目的とします。					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。					
【一般教育目標(GIO)】					
1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフル・エイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。					
【行動目標(SBO)】					
1. 「サクセスフル・エイジング」を心身両面から支援できる。 2. 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。 3. 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 4. 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定せず、必要な資料は配布する。					
【参考書】					
特に指定せず。高齢者福祉関連制度の「老人福祉法」「介護保険法」「障害者総合支援法」「生活保護法」等は配布する。 中島健一（著、編）、野島/繁樹(監)／第17巻 福祉心理学（公認心理師の基礎と実践）／遠見書房（2018/8/19）／¥2,860 川畑・大島他（編・著）／福祉心理学(公認心理師の基本を学ぶテキスト 17)／ミネルヴァ書房（2020/5/25）／ ¥2,420					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート80％、授業への参加態度20％の割合で評価する。出席点は評価に含めない。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防□老人福祉法 ・年齢階級別受療率 ・「寝たきり」予防		高齢社会の実態を理解し、その社会活動への影響を多角的に説明できる。	180分
2	高齢期の身体機能・感覚機能・運動機能の変化 ・機能の低下が日常生活に及ぼす影響・機能低下の予防・高齢者の自動車運転・視・聴・味・嗅・触の各機能低下が、日常生活動作へ及ぼす影響。 ・脱水や食思不振の背景要因		生物学的に加齢が感覚・運動機能へ及ぼすさまざまな影響を知り、適切な対応を提言できる。	180分
3	高齢期の認知機能・知的機能/記憶機能の低下 高齢期のパーソナリティ・高齢期の人間関係/家族関係の変化・結晶性知能と流動性知能 ・社会的離脱・補償を伴う選択的最適化・生活の中での支援（家族関係調整等）		「高齢者」の問題行動の背景に知的機能や人格の変化が潜んでいることを説明できる。	180分
4	喪失体験と心のケア（社会的支援） ・うつ ・回想法 ・独居・孤独 ・ソーシャル・コンボイ		高齢者支援のための各地域での社会的資源を検索し、そのサービスを活用できる。	180分
5	高齢期の精神疾患とその予防 ・認知症とは ・認知症への対応 ・演習：MMSE, HDS-R ・共感的理解		認知症スクリーニングテストを実施でき、その評価に対する適切な対応ができる。	180分
6	高齢者の介護について ・介護者の心理 ・高齢者虐待□ケア・マネジメント ・地域包括ケアシステム ・高齢者虐待防止法		高齢者虐待の介護者側の要因を知り、その予防のための方策を検討する。	180分
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・上記の臨床応用・「二人称の死」の受容 ・自身の死の受容		「キューブラ・ロス モデル」での心理的变化の段階を理解し、受容れることができる。	180分
8	まとめ ・高齢者の社会参加・高齢者の就業支援と経済的自立□QOL / well-being・サクセスフル・エイジング・年金、医療費の問題・高齢期の再就職、再学習支援		幸福な一生涯を実現するための最終ステージにおいて、私たちはどのような支援をすべきなのかを総括する。	180分

【科目名】精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh136
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【メールアドレス】			
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
医療現場における心理学の要素を生かした実際の治療についてより深く学びます。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
守秘義務についての契約書の記入を求めます。受講者の目的（臨床イメージ）を明確に持って下さい。			
【講義概要】			
(目的)			
どのようにして個の機能の回復と共に精神機能の回復を促すべきかを学びます。			
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
自分自身との対話が必要となるため、精神的な問題を抱える方は注意が必要です。			
レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】			
医療現場における心理学的アプローチの方法を理解すること。			
【行動目標(SBO)】			
自らの欠点を理解し、技術を向上すること。			
【教科書・リザーブドブック】			
公認心理師必携テキスト[学研プラス]			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			
レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの真の目的を理解する まず自分を知ること。その上で他者へのアプローチの仕方を知る	講義	事前に配布する資料に解答しておくこと	220
2	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの介入時期について 介入する時期の違いによりアプローチの違い	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
3	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションにおける職種の違いの理解と応用	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
4	心理リハビリの実践1 (事例1)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
5	心理リハビリの実践2 (事例2)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
6	心理リハビリの実践3 (事例3)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
7	心理リハビリの実践4 (事例4)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
8	総論	自ら選んだ事例に対してケースレポートをまとめてもらいます	事例を選んでおくこと	220

【科目名】精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh137
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【メールアドレス】			
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）を受講している方が望ましい。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
守秘義務についての誓約書を求めます。			
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
【講義概要】			
(目的)			
心理リハビリの国際的理解を深める。			
学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
リハビリテーション心理学における国際的視点を身に付け、広いフィールドワークで活躍できる能力を培えるように。			
試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】			
異文化に対する理解を深め、国際的に活躍できる能力を身につける。			
【行動目標(SBO)】			
様々な障壁を乗り越えて行動する力を持つ。			
【教科書・リザーブドブック】			
リハビリテーション心理学入門 〔荘道社〕			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			
レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 中国、台湾	講義	配布資料に目を通す	220
2	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 韓国	講義	配布資料に目を通す	220
3	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) フランス	講義	配布資料に目を通す	220
4	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) スイス	講義	配布資料に目を通す	220
5	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) イギリス	講義	配布資料に目を通す	220
6	国際的リハビリテーション心理 (アメリカ他) アメリカ、カナダ	講義	配布資料に目を通す	220
7	国際的リハビリテーション心理におけるジェンダーの問題 国際社会におけるジェンダーや様々な壁について	講義	配布資料に目を通す	220
8	総論 レポートをまとめ、評価を行う。	講義	レポートをまとめること	220

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】		疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmH138	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日の12：40-13：30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験を基に保健医療領域において心理職に求められる役割や知識および技術について学ぶ。 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
毎回資料を配付します。授業内で実施した課題については他に支障がない限り返却します。事例検討やプレゼンテーション等、学生の皆さんが主体となって展開される授業ですので積極的な参加を求めます。					
【講義概要】					
(目的)					
保健医療領域において求められる心理職の役割、知識および技術について学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
授業中に実施した課題については個別にコメントを付すか授業中に全体的に解説を行います。					
【一般教育目標(GIO)】					
保健医療領域における心理職の支援のあり方および他職種との連携について理解できる。					
【行動目標(SBO)】					
保健医療領域における心理職の役割について説明できる。 保健医療領域において支援を実践する上で必要な知識や技術について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
授業中の配付資料					
【参考書】					
野島 和彦（監）／公認心理師分野別テキスト①保健医療分野 理論と支援の展開／創元社／2019年／2,400円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 授業中課題（レポート）、論文講読の成果発表を通じて総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			20	15				35
	思考・推論・創造の力			20	15				35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・ガイダンス ・公認心理師法について 公認心理師の業務、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務等	講義	公認心理師法について調べてみる	220
2	・保健医療分野におけるチーム医療の実践（１） 精神科、心療内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 精神科や心療内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
3	・保健医療分野におけるチーム医療の実践（２） 内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
4	・保健医療分野における心理アセスメント パーソナリティ特性、抑うつ、不安の評価	講義・討論	講義プリントの復習 患者理解および支援のツールとしての心理検査について理解する。	220
5	・保健医療分野の事例検討（１） 発達段階の理解と子育て支援	講義・討論	講義プリントの復習 乳幼児支援における心理職の役割について事例検討を通して理解する。	220
6	・保健医療分野の事例検討（２） うつ病の理解と支援	講義・討論	講義プリントの復習 発達障害の病態および病態に合わせた支援のあり方について事例検討を通して理解する。	220
7	・保健医療分野の事例検討（３） 生活習慣病の理解と支援 主に糖尿病患者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 糖尿病の病態および糖尿病患者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220
8	・保健医療分野の事例検討（４） 生活習慣病の理解と支援 主に肥満者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 肥満の病態および肥満者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220

【科目名】心理アセスメント特論(心理的アセスメントに関する理論と実践)		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH210	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】2	【コマ数】15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③上記2つの心理に関する相談、助言、指導等への応用 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」 (方法) 毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行います。 レポートに対するフィードバックは個別に対応いたしますので、担当教員へご連絡ください。		
【一般教育目標(GIO)】 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。		
【行動目標(SBO)】 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用できる。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、プリントや資料を配布する。		
【参考書】 下山晴彦・宮川純・松田修・国里愛彦 編 『公認心理師のための「心理査定」講義』 北大路書房 (3,100円＋税) E・O・リヒテンバーガーほか 『エッセンシャルズ WAIS-IVによる心理アセスメント』 日本文化科学社 (7,000円＋税) 片口安史 『新・心理診断法ーロールシャッハ・テストの解説と研究』 金子書房 (9,500円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50%、授業内でのディスカッション・ディベート50%の割合で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	公認心理師の実践における心理的アセスメントの 意義	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査①	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査②	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査③	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査④	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査⑤	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査⑥	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法①	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240

9	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法②	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
10	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法③	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
11	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法④	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
12	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑤	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
13	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑥	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
14	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑦	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
15	公認心理師の実践における心理的アセスメントの 意義、心理的アセスメントに関する理論と方法を 心理に関する相談、助言、指導等へ応用する	講義 討議	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用する①	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	力動論に基づく心理療法の理論と方法①	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	力動論に基づく心理療法の理論と方法②	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	力動論に基づく心理療法の理論と方法③	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	力動論に基づく心理療法の理論と方法④	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法①	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法②	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240

9	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法③	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
10	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用する②	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
11	その他の心理療法の理論と方法① 箱庭療法	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
12	その他の心理療法の理論と方法② 遊戯療法（プレイセラピー）	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
13	その他の心理療法の理論と方法③ 動機づけ面接	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
14	その他の心理療法の理論と方法④ 集団療法（グループセラピー）	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
15	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用する③	講義 討議	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】アートセラピー特論		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】dbmh212	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】選択	
【単位数】	1	【コマ数】8	
(オフィスアワー) メールにて対応			
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
特に芸術的な能力や経験の有無は問いません。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
経験の有無を事前にお知らせください。			
【講義概要】			
(目的)			
1杯の茶を喫する癒しは世界共通の文化である。茶道はその人の「生」に深く結びつきながら芸術へと昇華される1面を持つ。茶道という枠を通して、人との距離、非言語的対話や癒す心などを学び、日常の診療に活用できるように指導する。			
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う			
(方法)			
試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】			
芸術療法の根幹である非言語的コミュニケーションを理解し、心理的な介入技術の基礎を身につける。			
【行動目標(SBO)】			
芸術療法を自ら実践することができるようになる。			
【教科書・リザーブドブック】			
芸術療法 [日本評論社]			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
受講態度80%、レポート20%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20				80	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				80	100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	所作を聴く 茶道の基本的な動作を学びながら、5感を働かせる 技術を学ぶ。	講義、グループ ワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身 につけること。 気づいたことを書き留めること。	220
2	結界を表象する 茶道を通して、空間のありかたについて学び、対 人距離を学習する。	講義、グループ ワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身 につけること。 気づいたことを書き留めること。	220
3	心でもてなす 客を迎える心に触れ、自分を客観的に見つめる技 術、相対する者への接し方を考える。	講義、グループ ワーク、実習	自分の在り方を顧みて、客観的にま とめてみる。	220
4	つかえる心 茶を点て、差し上げる喜びは、つかえる行為であ り、自身の喜びにつなげる。	講義、グループ ワーク、実習	芸術療法を通じた医療行為とはどう いうことかを考えてみる。	220
5	倦怠を癒す 息詰まった時の茶道での癒し方を学ぶ。	講義、グループ ワーク、実習	自分なりに日常に癒しを見立ててみ る。	220
6	間合いを遅くする 話し言葉とは異なる間合いを知ることによって、 自分と他者の心を調整する。	講義、グループ ワーク、実習	自分のリズムを振り返ってみる。	220
7	時を味方につける 1日の時の流れ、季節など移り行く時を取り入れ て、場を作り出す心を学ぶ。	講義、グループ ワーク、実習	四季に目を向け、日常に取り入れて みる。	220
8	そなえる心 技術ばかりを追い求め、さがることなく、行為そ のものの主体性や心境に自由を見失わないために 必要な心構えを学ぶ。	講義、グループ ワーク、実習	レポートの作成と提出。	220

【科目名】支援コミュニケーション特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】大矢 薫	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH213	(メールアドレス)	
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。			
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」 (方法) 毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行います。 レポートに対するフィードバックは個別に対応いたしますので、担当教員へご連絡ください。			
【一般教育目標(GIO)】 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を理解する。			
【行動目標(SBO)】 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 毎回、プリントや資料を配布する。			
【参考書】 新田泰生 編 『産業・組織心理学』 遠見書房 (2,600円＋税) 加藤容子・三宅美樹 編 『産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 (2,200円＋税)			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50%、授業内でのディスカッション・ディベート50%の割合で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 産業・労働分野における公認心理師の役割	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 リーダーシップ	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 安全文化	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 動機づけ理論	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 組織風土と文化	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 アセスメント	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 カウンセリング	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 コンサルテーション	講義 討議	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】		言語聴覚障害学総論		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmhS161	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は、言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶための構成になっている。よって、言語聴覚士や言語聴覚障害に関する概要を理解するものとして、言語聴覚士国家試験受験予定者だけでなく、他のコースの方も受講できるものとなっている。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義でDVDを見る機会があり、遠方の方で、こちらに来れない場合は、自宅でDVDを借りて見てもらうことがあります。その他は やスライドを中心に講義を行います。					
【講義概要】					
(目的)					
言語聴覚士の職務内容や職業倫理、対象患者などの理解を深める。人間がコミュニケーションをとるための聴覚や発声・発語に関する生理学的側面、また記憶や思考といった高次脳機能に関する側面、さらにそれらの機能を障害することによる様々な言語障害に対する知識を包括的に学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライドを中心に講義を行います。DVDをみることもあります。必要に応じてグループで討論することもあります。サテライトなど、webで受講する場合は1人で考えてもらいます。 ・レポートはコメントを付して返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
【一般教育目標 (GIO)】					
言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。					
【行動目標 (SB0)】					
・言語聴覚障害の種類、対象、原因、援助方法を説明できる。 ・言語聴覚士に関する言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理について説明できる。 ・言語聴覚士に必要な態度について理解を深める。					
【教科書・リザーブドブック】					
特にございません。					
【参考書】					
藤田郁代 監修『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 医学書院, 2010年 ¥5,000 (税別) 熊倉勇美, 種村純 編集『やさしく学べる 言語聴覚障害入門』永井書店, 2011年. ¥5,000 (税別)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポートの達成度100%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	講義の復習 レポート作成	220分
2	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	講義の復習 レポート作成	220分
3	言語聴覚士の歴史	講義	講義の復習 レポート作成	220分
4	言語聴覚療法とは	講義	講義の復習 レポート作成	220分
5	言語聴覚療法の流れ	講義	講義の復習 レポート作成	220分
6	言語聴覚士に関する法律	講義	講義の復習 レポート作成	220分
7	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	講義の復習 レポート作成	220分
8	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	220分

9	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞 感想文作成	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	220分
10	成人分野の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
11	摂食嚥下障害	講義	講義の復習 レポート作成	220分
12	小児分野の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
13	実際の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
14	実際の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
15	まとめ レポート作成	講義 レポート作成	講義の復習 レポート作成	220分